

丸山湿原群保全の会会報

(第 189 号)

発行日：2023 年 (R5) 4 月 17 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:maruyamashitugengun@gmail.com

戦争は最大の環境破壊と差別を生み出します！

何もかもがいっぺんに始まった春が過ぎようとしています。すぐ初夏。いや夏になるのかもしれませんが。とつても気になることが…ツバメ。3 月末に数羽確認したのですがその後ほとんど目にしません。(4 月 12 日現在) 知り合いからの情報を集めてみてもやはり同じ。数羽営業しているとの話もありますが、近くで「土食って虫食ってしぶ〜」の「聞きなし」を耳にすることはありません。

ツバメが生まれた家に戻ってくるのは 4 割程度らしい。オスカメスのどちらかが返ってくるのか。今、なかなか見られない現象が何を意味するのか？阪神間で繁殖した集団が東南アジアの越冬地で何かの事故に遭った？それとも阪神間が暮らしにくくなったためか。気候の関係で遅れているだけ？いろいろ考えてしまいます。異常気象の影響が杞憂に終わることを願っています。クラスが雛を襲って総数が減ってきているのも原因か？ツバメが RDB に記載されている地域もあるようです。コシアカツバメについては 28 都府県で指定。びっくりです！

各地で「選挙戦」が繰り広げられていますが「自然環境問題」は争点にならないのが日本。生き物のベースに目が向かないのは、日本が自然豊かな(生物多様性の高い)国だからでしょうね。気にも留めない間に消えていく動植物。危機感を覚えます。ツバメ来るかな〜来ると思うけど… と言っていると本日(14 日)「土食って虫食ってしぶ〜」が聞こえてきました。数は？
(今住 4 月 14 日作成)

第 3 湿原西側木道補修

★3 月 14 日 15 日 業者(あまがえる)さんに発注。



解体作業中



仕上げ作業

以前から気になっていた木道です。踏みつけるとグラグラしていました。すぐに崩れるという危険な状態でありましたが早め修理を依頼しました。踏み板は交換せず再利用。踏み板の腐っている部分は組み換えで対応。南側から 4 対の土台の柱(束柱=つかばしら)の交換です。古い柱に通されていたボルトが柱の腐食によってグラグラになっていました。

たった 4 対とはいえ、駐車場からの運搬や現場加工、養生も含め結構大変です。廃材はもちろん持ち帰り。三田市大川瀬の造園業者「あまがえる」さんに依頼しました。昨夏の「サギソウ開花数調査」にも一般募集で参加していただいております。「生物多様性」や「菌活」などを大切にする業



踏み板の組み換え



角材の束柱（兵庫県産杉）

者さんです。造園に対しては「小さな生態系の創出」がコンセプトだとか。とはいえ今回のような仕事は大変珍しいようで、多少の戸惑いもあったかもしれませんが、県天然記念物地域内ということに配慮した施工をして下さいました。

(HP<https://amagaeru.org/>)



解体束柱処分（持ち帰り）

今回は部分補修でしたが、今後他の部分を補修する場合のアドバイスもいただきました。ご縁がありましたらまたよろしくお願いいたします。

行ったついでに両生類の卵がどうなっているのか覗いてきました。2月末の調査では少ししか確認できなかったセトウチサンショウウオ（瀬戸内山椒魚）の卵囊ですが、木道の補修作業が行われている第3湿原でざっと確認しただけでも7対が成長していました。調査時には発見数0。産卵から20日ぐらいで幼体となって出てくると考えると調査後の産卵か？年々早くなっているとの勝手な推測は間違いで、実は3月初めがピークなのかもしれません。イノシシの数が減って



第3湿原の卵囊（一部）

脅威が減っているのかも。しかしシカやアライグマは増加しているし…ま～考えても仕方がない！ただアカガエル類の産卵は早く、とくにオタマジャクシに。この2種の同時調査はちょっと無理があるのかもしれません。次回は3月に入ってから調査も検討しましょう。

せっかくなので「あまがえる」さんにも見ていただきました。???という感じでしょうか。私も初めて2本のバナナのような卵囊を見たときは「何これ？」という印象でし

た。しかも成体より大きいものがどうやって産まれてくるのかも理解不能。知っている人は知っている。「しわしわ～ぷくら」卵のひ・み・つ！秘密でもないですが、ご興味のある方はお調べください。とにかく丸山湿原の両生類は、今のところ大丈夫のようです。

トレイルカメラから ★3月26日（日）雨のため中止！ トレイルカメラの情報

26日は雨のため作業は中止。前回「北摂里山愛す会」と協働作業したし、いいでしょ。で今回はトレイルカメラ（定点カメラ）の情報を少々。

冬場はオスジカが合流して比較的大きな群れがよく来ていました。「角合わせ」あり、のんびり草を頬張る姿あり。湿原にとってかなり危機感の強い情報でした。毎年こうだったのか昨年度が多かったのかは不明ですが、冬場に数が増えることは間違いのないようです。

特に第1湿原北側、水の少ない最も高い乾いたところがお気に入りのようです。カメラは湿原内に2台セットしていますが、北側のカメラがまさしく獣の通り道。シカの角合わせの迫力映像やウサギの飛び跳ねる姿、イノシシの気まぐれターン、タヌキのゆったり歩き。我が物顔で歩くアライグマも確認できました。キツネが写らないのが気になります。ウサギの減少はよく耳にしますが、キツネはあまり話題になっていません。キツネ、ちょっと気になります。人里のほうが多いのか？



タヌキが行く

4月に入り気温も急上昇。となると「人の群れ」が増えてきました。通常視点場付近の動きはこのカメラでは捉えないのですが、今回は人の動きのあまりのひどさにカメラがAIを自主的に発

動して写していました。(そんなんは搭載してませんが)おそらくハイキングの集団。4月2日(日)です。大岩ヶ岳経由で丸山湿原でお弁当。(11:30頃) **場所が狭いのか、視点場から当たり前のように湿原内へ。乾いたところですが、貴重種の出る場所。特に植物に興味がないグループは知らない**



信じられない行動



なんかこちらの方が許せます

ないので配慮も何もない行動をとるようです。かなりご年配の方が多かったような…また看板の設置が必要なのでしょうか?その前 10:00 頃には親子連れが。子ども 2 人が湿原内に入るのを黙認する姿も。保護者が入らないのがせめても

の救いですがなぜ?

我々も保全活動やデータ収集には入りますが、何がどこにあるかを知り配慮した行動をとっています。**普段ロープから中に入るのは厳禁です。**中で観察したい方は、年に数度一般参加型の調査を行っていますのでぜひそちらで。**保全活動のお手伝いに来ていただければなお歓迎いたします。**

定期活動 ★4月8日(土) 基礎調査 観察 ゴミ回収

目的	市内	市外
丸山	15	27
登山・ハイキング	63	66
散歩	10	14

来場者数計 195 人
(竹筒ポスト集計)

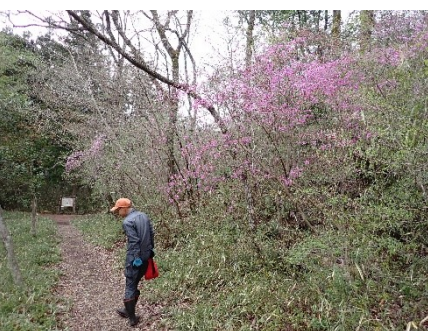
場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
入口	10:05	13.0℃		
第3湿原	10:30	【12.5℃】	30.4 μS/cm	7.2
視点場	10:40	9.5℃	25.5 μS/cm	6.8
第1湿原	10:50	【12.8℃】	28.7 μS/cm	7.0
第2湿原	11:20	【13.3℃】	31.1 μS/cm	7.0

前日の雨はかなりの量でした。宝塚市が設置している雨量計(大原野)で50mm ぐらいだったでしょうか?(はっきり覚えていない)ただ、市街地は100mm 前後降ったと記憶しています。西谷最北(宝塚市最北)の上佐曾利は30mm ぐらい。同じ宝塚市でこれほど気候が違うことにびっくりしました。標高も200m 近く違うし当たり前か?

もっと多く水が流れているかと思いましたが、丸山湿原からの川は少し濁りがある程度。湿原内も少し多いかなという程度でした。直接の集水域が狭いのが原因か?ただ、このおかげで濁流によるシルトの流れ出しや、大量の土砂の流れ込みがなく安定した湿原が維持されているようです。年中水が出るのが不思議ですが…シルトは補給されているのかもよくわからない。はげ山(ズリ)の減少でされてないという説が多いのですが。そういえば湿原



上には、はげ山 シルト流入?



コバノミツバツツジの下で何思う?

は痩せてきているような気がします…実際はよく分からない。シルトが流れ込むシステムもどうなっているのやら。それらしき状況の場所を見つけていますが、これは土砂の流れ込みと言うべきなのかもしれません。

湿原付近は早くもコバノミツバツツジ(小葉の三葉躑躅)が満開か?このツツジにはギフチョウ(岐阜蝶)がよく吸蜜に来ます。なぜかギフチョウはムラサキ系の花が好きだそうです。この日も食草

のヒメカンアオイ(姫寒葵)がある平場周辺で蜜を吸っていたとか。少し早いような気がします、花の時期と蝶の時期がミスマッチになると…怖い怖い。多分気温との関係は昆虫にも作用しているのしょうね。花が早い時には虫も早い?何となく納得。しかし、今年のように何もかもがいっぺんに(同時期)に咲いたりするとどうなるのやら。虫だらけ?にはなっていないな～。分からんことばかりです。

竹筒ポストの前のツクバキンモンソウ(筑波金紋草)は咲き始め。咲いているかと思っていたトリガタハンショウヅル(鳥形半鐘蔓)はあと一步。湿原のあまり見かけなかった場所でショウジョウバカマ(猩々袴)がたくさん咲いていました。イシモチソウ(石持草)も出てくる頃。探すとちゃんと粘着のある葉?を出していました。虫はキャッチしてるか?食虫植物ですが、虫からだけ栄養をもらっているわけではないので捕まえていなくても大丈夫。緑の部分があると光合成はしています。むしろ光合成のほうが養分のメインとなっているようです。しかし、食虫植物がいることは相当栄養分の少ない土の証明。なんか悲しいような嬉しいような不思議な感じです。

貧栄養の維持が保全の基本なんですけどね。このことを初めて聞いた人は理解できない。「はっ?」となります。畑や田んぼ、花壇には肥料を入れるのが当たり前ですもんね。

木本類ではクロモジ(黒文字)が終盤。アリマグミ(有馬茱萸)は花芽を膨らませていました。

動物はシュレーゲルアオガエル(シュレーゲル青蛙)が湿原から「コロコロコロコロ」心地よい声を響かせ、沢の穴からは「ゴゴゴツ ゴゴゴツ」と不気味に共鳴するタゴガエル(田子蛙)の鳴き声も。

カエルといえばヘビ。ちゃっかりヤマカガシ(山棟蛇)がウロウロし始めています。捕まえてみると体にはダニがいっぱい。「マダニ」かどうかは分かりませんがシカの増加と関係があるのでしょうか?多分ないな…前にも書きましたが、

ヘビですが ダニにやられました
が、ダニはすごいですね～。

最後に前日の風雨で倒れたのか、コナラ(ナラ枯れ木)が道を塞いでいました。チャチャと手鋸で処理。開通です。

そろそろツチアケビが芽を出すころ。今年も同じところから出るのでしょうか?最強ツチアケビに期待します。ヤマボウシやウワミズザクラの季節が近づいています。ぜひお越しください。でも湿原内に入ったらあかんぞ～!いやホンマ!



ショウジョウバカマ



イシモチソウ(食虫植物)



アリマグミもまもなく開花



倒木撤去中



ツクバキンモンソウ 咲き始め?



明日咲く?トリガタハンショウヅル



ヤマカガシ 毒ありますが何か?



ヘビですが ダニにやられました
が、ダニはすごいですね～。